

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年3月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の  
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動  
の充実

自分自身が日々納得  
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願  
達成

御聖意を拝し、身軽法重  
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で  
人材育成

『金沢の抜け参り』のお  
姿を忘れず寺院参詣・  
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年2月3日 節分会の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ「仏の三徳に應える信心」

大聖人が流された涙の意味を考えるだろうか。諸法実相抄には「鳥と虫は鳴くが涙は落ちない。日蓮は泣かないが流す涙に暇はない」(御書667 趣意)と示される。涙にも色々あるが、それら世間の涙は四大海の水よりも多い。しかし妙法を弘通するために涙を流す方は大聖人を除いて存在しない。この涙は、命に及ぶ大難を我が身に受ける法華経の行者としての「喜びの涙」であり、同時に私たち愚痴の凡夫の深い罪障を思う「慈悲の涙」なのである。信心を持つ者、末法の御本仏が一切衆生を命がけで救済せんと注がれる「甘露の涙」に合掌し、お題目を唱えさせて頂くべきではないか。慈悲の広大なるは「親の徳」、私たちの盲目を開かしめるは「師の徳」、無間地獄の道をふさぐは「主の徳」、この御本仏の三徳に應える信心に徹していこう。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その31)

創価学会が宗門に送りつけてきた九項目の『お伺い』なる詰問書は、宗門への敵意に満ちていた。その中には、先のお目通りの時に、猥下が名誉会長に「学会の記念行事があるから御講にいかなくてよいと、あんた自身が地域の総代に言ったじゃないか」と言ったとして、これを事実無根とする批難であった。無論、猥下はそのようなことを申す訳がなく、すべてが捏造極まるものであった。宗門は、もはや学会には『お尋ね』に対する誠意ある回答の意志がないものと受け止め、平成2年12月26日、その旨を学会本部へ通知した。そして宗門は、元より懸案事項となっていた「宗規」の改正に踏みきったのである。同年12月27日、臨時宗会により改正案が議決され、それに伴い総講頭・大講頭の資格が喪失したのであった。(次回 宗規改正の内容)

## ③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(閻魔王の働きについて)

「嘘をつくとも閻魔様に舌を抜かれるよ」という言葉はどこにいったのか。閻魔王は人間の生前の行為の記録(閻魔帳)を審判して賞罰を決める地獄の王である。裁きに私情を挟まないため常に怖い形相をし、王冠をかぶり、水牛に乗って手には棍棒を持ち罪人の縄を操るのである。閻魔の働きは、本来「死」への案内人であるが、人々の生命を奪う、また舌を抜くという役割も具えている。閻魔のもとには罪を裁く役人もいる。五道冥官(ごどうみょうかん)である。五道とは地獄・餓鬼・畜生・人間・天上で、冥土の判事が五道に別れる人の罪を裁く。お題目を妙法の御本尊に唱える人が臨終を迎えると、閻魔王や冥官は仏の遣いとなり、亡者を霊山の宝刹(ほうせつ)に案内するのである。ともに生命の浄化をなし、功德を我が命に刻もう。